第４回県立高校の将来の在り方検討委員会における委員の主な意見

１　県立高校の将来の在り方について（仮称）報告書（素案）について

＜今後の高校教育に求められるものについて＞

生きる力、社会性の育成、キャリア教育

○　高校教育においても、探究型学習を通じて協働や失敗の経験を学びに活かし、社会と関わりながら実践の機会を得ることが必要とされる。このような実践は、学力育成だけでなく、社会理解や自己発見にもつながり、たくましく生きる力を養う一助となる。

○　地域でのリアルな体験を通じて、将来の選択肢を広げる学びが必要である。

○　現在の社会では、一つの目標に向かって積み上げるだけでなく、他者や社会との関わりを通じて新しい自分を発見し、多様な分野に挑戦することが重要視されている。

○　社会と連携した学びの場を提供し、いつも新しい自分を発見しながら、たくましく生きる力が身につくものと謳えるものとする。

○　高校生が地域や産業界と積極的に触れ合うことは重要である。高校生の積極的な社会参画は、地域人材を育成することに繋がる。

○　キャリア教育は誰がどのように担っていくのか、外部の専門家を積極的に活用することなど、しっかり明示し、効果的な成果を出せるキャリア教育とするべきである。

○　幼児期からの主体的なキャリアビジョンの形成を支援する環境が重要である。

○　小学校からのキャリア・パスポートを活用し、高校でもキャリア教育を続けてほしい。

○　高校教育には学力だけでなく、「人間力」を育成することが求められており、多様な経験や人との出会いにより、変化の激しい時代の中で生きぬく力を身につけていく。

○　高校では、学力だけでなく、社会に出る力として、将来自立して生き抜くためのスキルを教育してほしい。

○　高校選びに際し、入学後に何ができるようになるかを高校側が明示することが重要である。

学びの多様化

○　深刻化する人手不足に対処するため、DX や IT 化の推進が重要であり、情報科など専門的な情報教育を実践できる教育の場が必要である。

○　コロナ禍でオンライン技術が普及した。遠隔授業など、遠方からでも学べる仕組みの活用が重要である。

○　高校教育に関するアンケートの結果より、多くの子供が大学や専門学校への進学を希望しており、それを実現するためには基礎学力の向上が不可欠と保護者は感じている。次のステージを見据えた学びを高校に求める声が強い。

○　高校時代から将来の職業を意識して進学先を選ぶケースが増えており、進学とキャリアは密接に結びついている。高校教育ではこれを支える学びが重要。

○　地元に戻るだけでなく、どこに住んでいても故郷・山形に貢献できる人材を育成することが大切であり、そのためにキャリアを活かす視点が必要。

○　大学入試や学びの方法が多様化しているため、高校では進路希望達成に向けた学習や、新しい分野の学びを提供することが求められている。

高校生活と学びの環境

○　子どもたちが自身の目標を明確にし、それを実現できる学びと環境を提供することが重要。

○　少人数制を希望する子ども、大きな集団で学びたい子どもなど、それぞれのニーズに応じた教

育制度の充実が求められる。

○　高校生活では、信頼できる教師や学友との親密な関わりを通じた学びの環境が必要。他者との関係性が学力やライフスキルの向上を支える基盤となる。

○　理想を実践に結びつけるための具体的な方法論や、それを長期的に維持する社会的仕組みが求められる。

○　学力（アカデミックスキル）の向上は、ライフスキルとのバランスが重要であり、これを充実させるための教育環境が必要。

○　高校入学直後、環境に慣れない段階で進路選択を迫られ、変更ができない仕組みであった。進路変更が難しい状況では、学びがつまらなくなる可能性があるため、柔軟な対応ができる仕組みが求められる。

○　柔軟な対応が可能な教職員であれば、生徒に寄り添った指導が実現し、教育が楽しいものになる。

○　高校生活の大部分を過ごす場所である学校の環境は重要で、清潔で快適な施設や学びやすい環境の整備が必要。そのためには教育予算の確保が不可欠。

高校の魅力化

○　高校の特色を打ち出すために、広報やブランディングが必要である。

○　魅力的な学校づくりの一環として、学校のブランド価値を高めることと、適切な情報発信を通じて中学生がより良い選択をできるようにする必要性がある。

○　高校選びに関して、偏差値ばかりが強調され、多様な選択肢や学校の魅力が中学生に十分伝わっていないと感じられる。学校の魅力を積極的に発信し、中学生に情報を届ける努力が必要。

＜県立高校の将来ビジョンについて＞

学校の規模と選択肢のバランス

○　教科や部活動の多様性を確保するには、一定規模の学校が不可欠と考えられる。一方で少人数の環境を望む声もあり、どちらも配慮する必要がある。

○　農業・工業・商業など職業学科は地域を支える意味で最重要。各地区に整備するべきである。

○　小規模校のフットワークの軽い教育は今後重要となってくる。

○　少子化による学校や学科の減少、選択肢の狭まりを避けることが必要である。

○　少子化の中でも、高校の選択肢がこれ以上減らないようにする工夫が必要である。

○　少子化の中で、地域にとって良い学びや必要とされる分野の精査が必要。

学校の再編・選択肢維持

○　地域に高校があることは住民にとって大きな希望であり、地域の未来を象徴するものである。

○　生徒が自力で通学できる範囲に高校は必要である。また、定時制や通信制なども含め、多様な選択肢も重要となる。

○　各学科を各地区にバランス良く配置することは前提であるが、酒田光陵高校のような大型合併も一つの手段である。

○　少子化の中でも、山形では多様な学びの分野の環境が整っていることを体感できるような再編整備とするべきである。

○　高校と地域が互いに学び合い、地域全体で高校教育を支える仕組みづくりが大切。

○　地域を巻き込むことで教育の質を保ちながら対応の幅を広げることが求められる。

○　高校生が将来の選択肢を狭めないよう、多様な働き方のモデルを示すことが望ましい。

○　地域に通信制のサテライト校などの選択肢が増えることも、学びの幅を広げ、自分の未来を選

択する力を高めることにも繋がる。

○　統廃合を進める際は、高校生が親元を離れることなく通学できる環境や交通手段の確保が重要。

○　人口減少が予想以上に進む中、学校維持や配置において従来の考え方が通用しない時代が到来している。限られた資源で多様な選択肢を維持するのは困難であり、現実的な対応が求められる。

○　少子化の中で教職員の負担を軽減するためにも、地域の人々や企業を巻き込んだ連携が必要。

○　再編整備にあたっては教職員の健康と働きやすさを考慮し、支援するための環境整備が必要である。

教育内容の多様性と質の向上

○　特別なニーズを持つ生徒への配慮が必要であり、定時制や通信制への移行だけでなく、全日制で柔軟なカリキュラムを提供し、個々のペースに合わせた学びを支援することは重要。

○　生徒の多様なニーズに対応する際、手を広げるほど教育内容が薄くなる可能性がある。

○　高校生が自分の未来を選択できる力を育むために、地域との連携や多様な学びの提供が求められる。

○　専門学科はとても重要であり、学校の特色を発揮し、地域との連携もしやすく、地域住民を巻き込みながら魅力化を進めることが重要である。

○　基礎的な学力とは何か問われ直されている時代であり、教師も常に教育力を向上させるためのアップデートが必要である。その支援体制や、成功例・失敗例を共有する場も整備し、教員の資質向上を図ることが望まれる。

○　生徒が研究や社会実装に取り組む実践を通じ、基礎学力と結びつく学びの機会を提供することが重要である。これにより、生徒が学びを自分の成長や未来に繋がるものとして実感できるような教育が求められている。

○　働き方改革を進める中で、オンラインを活用した教育支援プラットフォームを構築し、成功例・失敗例を蓄積・共有する場をつくることが考えられる。さらに、中学校・大学・企業との連携を強化し、教育全体の質を向上させる仕組みを整える。

教育環境

○　従来の「スタンダード」に合わせる教育ではなく、これまでになかった新たな学びの形を認め、創造していく柔軟性と挑戦が高校教育に必要である。

○　風通しのよい学校作りを進めるには、予算や体制、コーディネーション機能の不足を補う必要がある。そのため、成功例や失敗例を蓄積・共有できる教育委員会のオンラインサイトやコミュニティを整備し、学校関係者が自由に情報を活用・共有できる仕組みを構築することが望ましい。

○　部活動の地域移行が進む中、学校の規模や役割に対する考え方が変わる可能性がある。ただし、現在の学校運営を継続する場合、多様化した活動に対応するための教員やリソースが必要。

学科に関する意見

○　将来ビジョンの各学科の配置に関する方向性では、起業家育成に関する学びが今後求められるため、文言を明示するべきである。

○　福祉は看護やリハビリテーションなどの近接領域として再考する必要もあるのではないか。

○　福祉分野は地域づくりや災害復興、ダイバーシティの推進、特別なニーズのある子どもの教育など多岐にわたる重要な分野としての人材育成が求められる。